

ご近所のお医者さん

□
688
□

尾崎医院

尾崎真理子さん

—東大阪市

子どもたちの未来は何色？

私は小児科医ですが、この15年余り子育て支援もしています。つどいの広場事業▽病児保育室事業▽小規模保育園事業▽一時預かり事業▽子どもたちの居場所づくり事業▽世代間交流としての人形劇活動—です。聞き覚えのない事業か

もしれませ
んが、多く
の方々のご
支援とご協
力で続けられています。

両親が、子育てをしながら笑顔で幸せに人生を送る。そして、その両親とともに子どもたちも幸せに過ごせる。

親子の笑顔がある社会

そんな社会をめざして、私も少しでも縁の下で手助けができればと思っています。

しかし、日本の出生率の低下は止まりません。フランスやスウェーデン、フィンランドなどでは、すでに199

0年代から少子化対策を続けています。有給休暇は両親合計で400日近くあります。日本とは桁が違います。

さらに、3人以上の子どものいる親は、年金額も優遇されます。そのような政策をした結果、成果が出て、高出生率を自称していた国々でしたが、2023年には出生率が低下し非常にショックを受けました。

日本でも欧米の少子化対策を手本と

して、若い人々が経済的に安定するよう働き方改革がなされています。妊娠、出産、子育てに費用が掛からないよう、学費の無償化まで進めています。多くの施策が次々と打ち出されています。団塊の世代の孫世代が結婚出産年齢に入りつつあり、政府は「あと6〜7年が勝負！」と明言しています。

とにかく子どもを産み育てる「共育

て」人生も

選択肢に入

れてみませ

んか？ 子

育ては大変

だけれど、父性・母性をたっぷり注ぎ、子どもたちの成長を見ながら素晴らしい人生を送りましょう！

現在の出生率低下の原因は、当の若者世代が「結婚はしても、子どもは欲しくない」と考えているところにあるように思います。その考え方を考える方策は何でしょう？

親子の幸せな笑顔を見たい！ 私は支援し続けます。

